

The study about coaching mental model of
the soccer coaches of developing age

1K10C024-3 飯野 史人

主査 堀野博幸 先生

副査 深見英一郎 先生

【目的】

スポーツ指導者が持つコーチング・メンタルモデルについて北村ほか（2005）は「指導者が選手の指導にあたり心内に構成していく理解内容であると同時にその後の指導の拠りどころとなるもの」と述べ、コーチング・メンタルモデルを明らかにすることで、「その結果指導者の指導観、指導意図、及び指導行動の全体が明らかとなる。」（北村ほか、2005）と述べている。

先行研究より、海外のプロサッカー指導者らのコーチング・メンタルモデルは明らかになっているが、育成年代のサッカー指導者のコーチング・メンタルモデルは明らかになっていない。

そこで本研究の目的は、育成年代指導者のコーチング・メンタルモデルを明らかにすることを目的とした。

【方法】

1. 本研究は、育成年代の指導者が著した著書を、引用・参考にして行い文献研究とする。

2. 対象者

- 1) サッカー指導者としての指導歴が10年以上ある。
- 2) 監督として指導に当たったチームで過去に全国レベルの大会や国際大会での優勝経験がある。
- 3) 日本サッカー協会公認指導者ライセンスでA級以上のライセンスを保持している、または海外のサッカー協会公認で同等以上のライセンスを保持している。
- 4) 日本サッカー協会等に所属する第三者的な専門家から優れた指導者として高い客観的な評価を得ている。

以上、4項中、3項以上満たす指導者の著書を分析対象とした。

【結果】

育成年代指導者のコーチング・メンタルモデルが構築された。指導の哲学・理念・価値観・知識等について質的な手法で分析を行い、コーチング・メンタルモデルの分析及び構築を行った。

U-12年代指導者は、「指導者の姿勢」が選手の「取り組む姿勢」に影響し、それが最終的に、選手の「パフォーマンス向上」につながる、と考えていることが示唆された。以上のことより図1に示したモデルが形成された。

U-15年代指導者は、「指導者の姿勢」により選手の「人間教育」を促がしそれが最終的に「パフォーマンス向上」につながっていると考えていることが示唆された。以上

のことより図2に示したモデルが形成された。

U-18年代指導者は、選手に「意識化」、「人間教育」をすることで「自立」を促がし、最終的に「パフォーマンス向上」につながっていると考えていることが示唆された。以上のことより図3に示したモデルが形成された。

【考察】

結果から育成年代指導者のコーチング・メンタルモデルが構築された。これにより、本研究の第一目的は達成された。

1. パフォーマンス向上

全ての年代の指導者がパフォーマンス向上に重きを置いていることが示唆された。

2. 指導者の姿勢

U-12年代指導者、U-15年代指導者に共通してみられたカテゴリーである。小学生、中学生という年代と接する特性上、現れたと示唆された。

3. 取り組む姿勢

U-12年代にのみみられたカテゴリーである。主体的な行動や気付きを引き出す指導を重要に似ている可能性が示唆された。

4. 人間教育

U-15年代、U-18年代指導者にみられたカテゴリーである。大人の入り口に立っている年代だからこそ、人間教育を重要にしている可能性が示唆された。

5. 自立

U-18年代指導者にのみみられたカテゴリーである。大人の入り口に立っている年代であり、選手が勝利に専心し、そのための目標を選手自らが認識できるからこそ主体的な自立が重要にされている可能性が示唆された。

6. 意識化

U-18年代指導者のみに、みられたカテゴリーである。プロや普通の社会生活の入り口に立っている年代であり、勝利という結果に専心させやすく、また思考能力に関しても、大人と同程度にまで発達していると考えられることから、現状の認識と、目標を達成するための努力や自己制御能力の向上という高度な課題が示されたものと考えられる。